

## NPO パートナーシップ協力プログラム 事業終了報告書

団体名特定非営利活動法人 しずおか共育ネット

代表者名 代表理事 井上美千子

1. 事業名

熱海伊豆山土砂災害で被災した子どものための居場所・学習支援運営事業

2. 事業カテゴリー

被災地支援

3. 事業期間 2021年10月16日(土)～ 2022年3月31日(木) (居場所運営日数：36日間)

4. 契約金額

1,000,000円

5. 担当者名

代表理事 井上美千子

6. 事業目的

熱海の土石流災害で被災した子どものための居場所・学習支援を行うことを通じて、安心・安全な環境下で子どもたちがのびのびと過ごし、遊びや学びの機会を提供するとともに、災害の影響を受けた保護者の負担を軽減する。また、実施可能な計画策定を行うことで、本事業終了後も子どもたちへの継続的なサポートを行う体制を構築する。

7. 事業の成果

・居場所開設日数：36日

10月～12月は週2回土日開催（実施回数20回）

1月～3月は週1回土日のいずれか開催（実施回数12回）

・居場所利用者数

カタリバパーク（小学生以下）：のべ303人

ユースラウンジ（中学生）：のべ67人

合計：のべ370人

・居場所運営スタッフ数：のべ118人

(1) 子どもたち・保護者への支援内容

【実施の背景】

しずおか共育ネットでは、認定特定非営利活動法人カタリバと連携し、7月6日(火)より静岡県教育委員会・静岡県ボランティア協会・静岡県社会福祉協議会・避難所で活動しているスタッフのヒアリング等、被災した子どもたちの状況把握を実施。ヒアリングを通して被災した子どもたちは、下記状況に置かれて

いることがわかった。

- 前提として、自宅とは異なる避難所での生活なので常にストレスがかかっている
- 新型コロナウイルス感染症対策で、行動に何かと制限がかかる
- 熱海市の放課後児童クラブ（学童）は、昼間保護者のいない家庭の小学校児童が対象であるため、子どもを預けられない家庭もある
- 夏休みが始まったら、毎日朝から晩まで子どもにつきっきりでの避難所生活になる
- 土石流により家が全壊、家族が行方不明になっているご家庭もある

以上の状況を踏まえ、子ども支援ニーズの高まりを感じていた矢先、熱海市役所内、健康福祉部社会福祉課子育て支援室から、子どもたちの居場所支援の要請を認定特定非営利活動法人カタリバが受け、避難生活を送っている家庭の子どもたちに居場所と学習支援の機会を提供することになった。

しずおか共育ネットは、静岡県で活動する N P O 法人として認定特定非営利活動法人カタリバと連携し、避難所における居場所運営を実施した。また、現地熱海の高校生が地域のために何かできることに取り組めるよう、静岡県立熱海高等学校と連携し、高校生対象の説明会・ボランティアマネジメントを担った。避難所解消後も一時帰宅時の子どもの預かりニーズや継続的な居場所を求める声が寄せられ、子ども支援のニーズがあったため、10月以降も継続して居場所を運営することを決めた。

#### 【居場所運営による子ども・保護者の変化】

- ・子どもたちは被災直後と比較して、半年間継続して居場所を運営する中で徐々に落ち着きを取り戻り、のびのびと過ごす様子が窺えた。
- ・保護者の方々からは、規制区域内への一時帰宅時の子どもの預かり実施や子どもたちが安心して過ごせる居場所を継続して運営していることへの感謝が折に触れて寄せられた。
- ・避難所から別エリアのみなし仮設に入居後も通う子どもがいるなど、子どもたちの「居場所」として強く認識されていた。

#### (2) 静岡県内・熱海市内の団体との連携

- ・静岡県立熱海高等学校・静岡市立高等学校の生徒さんが、ボランティアで参加するなど、年齢の近い少し年上のお兄さん・お姉さんとの時間を子どもたちも楽しんでいる様子であった。
- ・居場所運営にあたっては、静岡県教育委員・元公立小学校校長・元公立小学校教諭にも参画頂き、子どもたちの心のケア及び居場所運営について専門性に基づいたアドバイスを頂いた。
- ・居場所を提供頂いている未来創造部様の「食育講座」「環境講座」の実施や、A C A O 様 (<https://www.acao.jp/>) ご協力の A C A O F O R E S T への遠足など、地元団体と連携して、子どもたちの支援に取り組むことができた。
- ・1月以降は、大野商店様にホットドックやはしまき、熱海 smile 子ども食堂様に昼食を提供頂き、地域の方々から支えられていることを子どもたちに伝えていくことができた。

## 8. 事業種別（コンポーネント）ごとの成果

### (1) コンポーネント①

- ・被災した子どもたちが安心・安全に思い思いの時間を過ごす居場所を運営することができた。被災直後は、精神的に不安定なお子さんも多い状態であったが、時間の経過と共に徐々に落ち着きを取り戻し、のびのびと過ごすようになっていった。
- ・居場所での過ごし方は、徐々に子どもたちがリズムを掴み、午前中に宿題を実施し、午後は公園で外遊びを楽しんだり、イベントに参加したりしながら、過ごすことができた。
- ・未来創造部の光村副社長による環境講座や小侯シェフの食育講座・手作りお菓子教室、地域の心ある有志の方々によるイベント開催等、子どもたちが文化的経験に触れる機会を提供することができた。

・静岡市立高等学校科学探究科の高校生企画による「不思議なスライムづくり」は、企画から運営までを高校生が全て担い、子どもたちに科学に触れる機会を提供することができた。子どもたちはスライムづくりに夢中になり、自分で作ったスライムで飽きるまで遊ぶ様子が印象的であった。

・未来創造部伊豆山支援チームのご協力により、秋・冬物の衣服の配布会を実施することができた。土砂で全てが流されてしまったご家庭もあり、秋・冬物の衣服を自由に選び、持ち帰って頂くことができた。衣服の配布は、子ども用だけでなく大人用も用意し、保護者の方のニーズにも対応できた。

・中学生を対象にした熱海ユースラウンジについては、受験を控えた3年生を中心に、受験勉強に取り組んでいた。中学生の学習支援は、大学生ボランティアスタッフや元小学校教諭の先生が担当し、難しかった単元・問題の理解が促進されたとの感想が寄せられた。受験終了後には、合格の報告に訪れ、喜びを分かち合うことができた。

【参考資料：別紙報告書添付】

## (2) コンポーネント②

4月以降の子どもたちの支援体制については、下記団体が引き続き支援を継続して実施して下さることが決定した。これからも居場所を運営して欲しいという子どもたちの声を受けて、4月以降の子どもたちの居場所を継続して提供する体制を構築するため、下記団体と調整・話し合いを実施した。

### ①熱海 smile 子ども食堂

毎週日曜日 10:00～14:00 に子どもたちの居場所づくりと食事支援を実施。熱海 smile 子ども食堂様は、発災直後から伊豆山地区の子ども支援をしたいという思いを持ってくださっていたとのことで、カタリバパークに参加してくれていた保育士のボランティアさんに代表の石橋様をご紹介頂く。

本事業実施中の2月以降、昼食（お弁当）を熱海 smile 子ども食堂様にて提供頂けることになり（費用は子ども食堂にて負担）、子どもたちと一緒にお昼にお弁当を取りに行き、熱海 smile 子ども食堂のスタッフの皆さんと他の子どもたちと徐々に交流できるようにした。最終日には、熱海 smile 子ども食堂様がビンゴ大会を企画して下さり、子どもたちが楽しみながら景品を選ぶ姿が印象的であった。

### ②未来創造部伊豆山支援チーム

伊豆山地区の皆様が笑顔になる企画の運営。詳細の内容は今後決定。内容が決定次第、子どもたちに案内できるように未来創造部様でLINEアカウント登録の案内チラシを作成して配布した。

## 9. 事業全体を通じて得た教訓や課題等

・被災地支援に終わりはなく、子どもたちの心のケアや被災されたご家族の復興は今後もずっと続いていくことを改めて強く認識した。「カタリバパークを今後も継続してほしい」という声が子どもたちから寄せられ、中には涙する子どもや「なぜ終わっちゃうの？」と別れを惜しむ子どもにかけられる言葉がなかったことも事実である。日常の生活の中で、地元熱海の方々が中心となり、子どもたちが安心できる居場所を今後も継続して運営できる体制構築が何よりも重要だと感じた。

・今回、幸いにも熱海 smile 子ども食堂様と未来創造部様が継続して支援をしてくれることが決定したが、子どもはこれまでに慣れ親しんだスタッフとの継続した交流を求めている。まん延防止等重点措置の影響もあり、スムーズな移行に向けた連携を丁寧に実施する必要性を感じた。

## 10. 協力体制の構築

・株式会社未来創造部：居場所に利用するワークスペースの提供のみならず、環境講座や食育講座の実施等子どもたちと一緒に見守る同志のような存在でした。また、4月以降も伊豆山支援チームが引き続き、子どもたち向けのイベントを企画する等、継続支援につなげることができた。

・認定NPO法人カタリバ：東日本大震災以降、被災地における子ども支援において多くの実績があり、困

ったときに相談に乗って頂き、大変心強い存在だった。

#### 1 1. Civic Force との協働について

・大変きめ細かくフォローしてくださり、心より感謝申し上げます。おかげで子どもたちに安心・安全な居場所を継続して、提供することができた。